

2016年2月21日(日)朝10:10～
2月第3共同主日礼拝式説教

受難節・四旬節第2、臨時役員会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：光の子として歩みなさい

聖書：エペソ 5章6～14節

＜口語訳＞

新約聖書305～306頁

エフェソ 5章6～14節

＜新共同訳＞

新約聖書357～358頁

エペソ 5章6～14節

＜新改訳第3版＞

新約聖書379頁

エペソ 5章6～14節＜塚本訳＞

新約聖書614～615頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇エペソ書は、使徒パウロが、アジア(現在のトルコ)のエペソと周辺教会への牧会的な書簡で教会の中の争いのる調停を通して、救い主(メシヤ)なる神の教会の真実な姿を論理性、をもって示しています。

◇エペソ書5章3～14節では、不品行、汚れ、貪りの罪が、エペソ教会と周辺教会に蔓延していたので、神の光・恵みの中での生活を求めています。

⇒使徒パウロは、「光と暗闇」という概念をもって、キリスト者のあるべき生活を提示しています。

⇒「光」は、「暗闇」の中で最も、その本来の働きを発揮するので、「光＝神＝神の光の中のキリスト者」という構成をもって、使徒パウロは、エペソ教会と周辺教会のキリスト者に語りかけています。

◇本日は、エペソ書5章6～14節から「光の子として歩め」との使徒パウロの命令に傾聴したいと願っています。

⇒先週は、悪魔の誘惑に神のみことばで勝利する神信仰の歩みを知りました。

本論；

◇本日、エペソ書5章6～14節から主の使信に
思い・心をとめます。

◆エペソ5章6～7節；使徒パウロは、神に
「従順なキリスト者」として生きることを求めています。

◇3～7節；塚本訳◆汚穢なる生活を棄てよ

「6 君達は誰からも空な言葉で瞞されては
ならない。(これらの罪はその人達が言う
ように決して何でもないことではない。)
こんなことをするからこそ、神の怒りが
これら不従順の子らに臨むのである。

7 だから(決して)その仲間になるな」と、使徒
パウロは語っています。

◇6～7節；「君達は誰からも空な言葉で
瞞されてはならない」、「神の怒りがこれら
不従順の子らに臨む」、「その仲間になるな」
と、使徒パウロは語っています。

⇒5節；「淫行の物や汚穢を行う物や貪欲な者
すなわち偶像礼拝者は皆、キリストと神との
王国の相続権を有たないことは、君達が
(よく)知って居りまた認めていることではない

か！」と、使徒パウロが語ったことばを受けて、**6～7節**のことばを語っています。

⇔「**君達は誰からも空な言葉で瞞されてはならない**」の後に、「なぜなら」という日本語の聖書では省略されていることばが挿入されているので、「**偶像礼拝者**」=「**不品行、汚れ、貪りの罪の生活者**」に関らず、その仲間にならないように、使徒パウロは言っているのです。

⇒多くの人々は、**神なき生活**において、「**肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢**」(Iヨハネ2:16)の誘惑に敗北するのです。

⇒「**空な言葉**」が人をだますのは、**SY師**がご指摘のように、**人間の官能を刺激する言葉**だからです。

⇒**神信仰に徹底している人**には、「**空な言葉**」ですが、「**不品行、汚れ、貪りの罪の生活者**」には魅力的なのです。

⇒**悪魔**は、「**空な言葉**」を使い、時には、聖書のことばを悪意をもって引用し、**神なき生活**へといざなうのです。

⇒**神の子**は、**神の御子の本心**を見る人です。

◆エペソ5章6～7節；使徒パウロは、神の子とされたキリスト者に「光の子」として生きよ、命じています。

◇8～14節；塚本訳◆光の子となれ

「8 君達はかつては暗であったが、今は主に在って光である。光の子らしく歩け——

9 光の果実はあらゆる善と義と真であるから

10 何が主の御意に適うかを(よく)吟味せよ。

11 そして果実を結ばれない暗の業に与せず、むしろ(これを)明るみに出せ」と、使徒パウロは語っています。

◇8～11節；「君達はかつては暗であったが、今は主に在って光である。光の子らしく歩け」、「光の果実はあらゆる善と義と真である」、「何が主の御意に適うかを(よく)吟味せよ」、「果実を結ばれない暗の業に与せず、むしろ(これを)明るみに出せ」と、使徒パウロは語っています。

⇒「光の子」は、神の子・キリスト者のことです。

⇒「光の子らしく歩け」という時、使徒パウロは、9～11節で、「光の子」がすべきことを語る。

- ⇒①「**光の果実はあらゆる善と義と真である**」、
②「**何が主の御意に適うかを(よく)吟味せよ**」、
③「**果実を結ばれない暗の業に与せず、むしろ(これを)明るみに出せ**」と、3つのことを提示しています。
- ⇒①「**善と義と真の生活者**」が**光の子の本質**で、
②「**主の御意**」を「**吟味できる**」のも**光の子の神信仰**で、③「**暗の業**」を「**明るみに出せる**」のも、**光の子**であるからできるのです。
- ⇒「**善**」は、「**善意**」とも訳されますが、「**博愛慈善**」など対人関係を表すことだと、**SY師**は語っておられ、**光の子・キリスト者**が、他の人に心配ができる**神の器**であると暗示されます。
- ⇒「**御意**」は、「**喜ばれること**」を意味し、「**吟味**」も、日常生活の中で「**何が神によろこばれるか**」を絶えず祈って求められるのも、**光の子**だと。
- ⇒「**暗の業**」=「**偶像礼拝者**」=「**不品行、汚れ、貪りの罪の生活者**」で、「**暗**」から脱出した**光の子**だから(8)、**彼らの罪を反映**できます。
- ⇒「**明るみに出す**」とは、「**罪責の細目まで確認する**」ことで、「**暗の業**」に「**与せず**」=「**共有して喜ぶことをしない**」ので、できるのです。

◆ エペソ5章6～7節 ; 使徒パウロは、神に「讚美」ささげて生きることを求めています。

◇ 8～14節 ; 塚本訳◆ 光の子となれ

「12 何故なら、彼らが隠れて行うことは(これを)口にするさえ恥ずかしいことである。

13 しかし明るみに出され(てその正体を暴露され)るものは皆(神の)光によって照らされる。

14 (そして神の光に照らされ罪を浄められる時その人自身が光となる。)然り、(光に)照らされるものは皆光である。故に主は言い給う——眠る者、起きよ、死人の中より立ち上がれ、さすればキリストが汝を照らし給うであろう」と、使徒パウロは語っています。

◇ 12～14節 ; 「彼らが隠れて行うことは(これを)口にするさえ恥ずかしいことである」、「明るみに出され(てその正体を暴露され)るものは皆(神の)光によって照らされる」、「神の光に照らされ罪を浄められる時その人自身が光となる」、「(光に)照らされるものは皆光である」、「眠る者、起きよ、死人の中より立ち上がれ、さすればキリストが汝を照らし

- 給うであろう」と、使徒パウロは語っています。
- ⇒14節最後の「眠る者、起きよ、死人の中より立ち上がれ、さすればキリストが汝を照らし給うであろう」は、当時の教会の讚美歌の1節であると、SY師は語っておられ、**光の子・キリスト者への警告**を含むと仰せです。
- ⇒「隠れて行うこと」は、「**暗の業**」で、これの巻き込まれる危険が、**キリスト者**にもあるのです。
- ⇒13～14節で、「**明るみに出され(てその正体を暴露され)るものは皆(神の)光によって照らされる**」、「**神の光に照らされ罪を浄められる時その人自身が光となる**」、「**(光に)照らされるものは皆光である**」と、**神の恵みのわざ**が語られています。
- ⇒SY師は、13～14節を12節までの延長線と見ず、**使徒パウロ**の新しい解説と読む方がよいとご指摘です。
- ⇒13～14節前半は、8節;「**今は主に在って光である**」の解説であるというのです。
- ⇒また、13節の「**(神の)光**」は、**キリストご自身**であると、SY師は仰せです。
- ⇒**讚美歌293番2節**を味わいましょう。

結論；

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**エペソ書**は、使徒パウロが、アジア(現在のトルコ)のエペソと周辺教会への牧会的な書簡で教会の中の争いのる調停を通して、救い主(メシヤ)なる神の教会の真実な姿を論理性、をもって示しています。
- ◇**エペソ書5章3～14節**では、不品行、汚れ、貪りの罪が、エペソ教会と周辺教会に蔓延していたので、神の光・恵みの中での生活を求めています。
- ◇本日は、**エペソ書5章6～14節**から「**光の子として歩め**」との使徒パウロの命令に傾聴したいと願っています。
- ⇒「**暗**」は、教会外の「**偶像礼拝者**」=「**不品行、汚れ、貪りの罪の生活者**」を使徒パウロが示した理解されています。
- ⇔**神**は、**KK師**が仰せのように、すべての人々に**神の救いの機会**は与えられてはいます。
- ⇒逆に、**光の子**とされた**キリスト者**も、「**暗闇**」の中に巻き込まれる危険は常にあります。
- ⇒私たちは、「**かつては暗であった**」ことを決して

忘れてはなりません。

⇒**SY師**は、「**神の光に照らされ罪を浄められる時その人自身が光となる**」、「**(光に)照らされるものは皆光である**」は、**神の光**そのものである**神の御子イエス・キリスト様**の中にあつて告白できることです。

⇒**主日の神礼拝ごと、日ごとの個人礼拝ごと、病気や様々な困難に直面した時、恵みの神が讚美**できることが、**光の子とされた者の特権**です。

⇒「**光の子**」は、「**暗闇**」を必要としていません。

⇔「**暗闇**」が、「**光**」を必要としています。

⇒「**神の恵みの光**」は、「**神の光の中の罪**」さえも、輝かすことができます。

⇔**神の御子の恵みの光**は、**罪の赦しの光**ですから、**罪を悔い改め、神の差し出した供物は、神の栄光を必ず、神の光を反映する**からです